

氏 名	赤 井 英 夫
	あか い ひで お
学 位 の 種 類	農 学 博 士
学 位 記 番 号	論 農 博 第 177 号
学位授与の日付	昭 和 42 年 9 月 23 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 5 条 第 2 項 該 当
学 位 論 文 題 目	木材価格の趨勢変動に関する研究—木材市場の展開 過程の理解のために—
論文調査委員	(主 査) 教 授 岸 根 卓 郎 教 授 来 原 正 信 教 授 中 嶋 千 尋

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は明治以来今日にいたるまで、わが国の木材価格がどのような趨勢変動を示してきたかを統計的に検証し、かつそのような趨勢変動をひき起こした諸要因が何であるかを歴史的事実によって究明したものである。

経済の時系列変動の多くは、そのときどきの小変動を無視して観察すると、つねに一定の基本的な運動の方向を持続している。その方向は、ある場合はつねに増加に向い、ある場合はつねに減少に向い、またある場合は両者が時を隔てて交互にあらわれることもある。趨勢変動はこのような長期間にわたって持続する時系列の基本的な運動であり、その理解は一見きわめて容易なようであるが、それを現実の価格時系列資料から抽出することは決して容易なものではない。それは実際の価格変動が趨勢変動と循環変動の複雑な組み合わせからなり、両者を区別することが非常に困難であるからである。

そこで、著者は趨勢変動と循環変動との相違は、その時系列の長さに対して相対的なものであるとの相対概念によって、現実の木材価格変動のうちから、趨勢変動を統計的に抽出することに成功した。ここに、木材価格の趨勢変動を抽出し、それを分析することの重要性は、木材価格の趨勢変動の背後には、それをひき起こすにいたるかなり長期に固定した木材の需給構造の変化があり、それが林業の生産構造ならびに木材の消費構造に変化を与え、ひいてはわが国林業の経済成長を左右することになるからである。

ついで、著者はこのようにして抽出した木材価格の趨勢変動について、それをひき起こした諸要因を以下に示す八つの需給両曲線のシフトの方向によって理論的に説明した。すなわち、①需給両曲線とも右シフト ②需要曲線右シフト供給曲線不変 ③需要曲線右シフト供給曲線左シフト ④需要曲線不変供給曲線左シフト ⑤需給両曲線とも左シフト ⑥需要曲線左シフト供給曲線不変 ⑦需要曲線左シフト供給曲線右シフト ⑧需要曲線不変供給曲線右シフト。

最後に、著者はこれら需給曲線のシフトの諸要因を歴史的事実によって克明に分析し、それがわが国林業経済の成長におよぼす影響を明らかにした。

論文審査の結果の要旨

経済学において価格分析はその中心的研究課題をなすものである。本論文はこの価格分析の立場から、木材価格の形成を、その形成の場である木材市場を中心に分析し、木材価格の趨勢変動を統計的に抽出して、それを歴史的事実によって実証したうえ、その趨勢変動がわが国林業の経済発展におよぼす影響を明らかにしたものである。

木材は建築用材、木工製品など原形のままで使用されるほかに、パルプ、紙、化繊などの原材料としても広く利用され、その比重は年とともに大きくなりつつある。林業はこのようないく回生産の過程を通じて、ますます多くの付加価値を追加しつつあるが、このことは林業の生存がそれだけ強く他産業とくに木材関連産業の動向に左右されつつあることを意味しており、それを逆にいえば、木材の関連産業の生存もまた林業の動向によって左右されつつあるということである。この結果、木材価格の変動、とくにその上昇的な趨勢変動は、木材関連産業による木材の利用をますます困難にし、それが木材関連産業の活動を圧迫し、一方、代替財の進出をも招いて木材の有効需要を減じ、ひいては林業自体の経済成長を阻害することになる。

著者は木材価格の趨勢変動にみられるこのような重要性を究明し、それを引き起こす要因を理論的、実証的に分析したうえ、さらにその背後にある木材の需給構造、生産構造、消費構造を詳細に分析して種々の新知見を得た。加えて、著者は木材価格の趨勢変動がわが国林業の経済成長におよぼす影響をも明らかにした。

以上に述べるごとく、本論文は木材の価格分析という重要問題に新知見を与えるとともに、それがわが国林業経済におよぼす影響をも明らかにしたものであり、林業経済学研究ならびに実際界へ貢献するところ多大である。

よって、本論文は農学博士の学位論文として価値あるものと認める。